

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	主体的に学び合う力
・義務教育終了段階の子供の姿を共有し、教育活動の充実を図る。	・確かな学力の定着や学習習慣の確立及び基礎体力に課題がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自ら課題を発見し、自分で考え、協働して解決することができる子ども
・小規模校の特色を生かした教育活動を推進する。	・積極的に挨拶をすることができ規範意識が高いが、自己肯定感が低い児童・生徒もいる。	中学校区として統一した取組等	○授業づくり 単元で『身につけるスキル』を明確にした授業を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
・一人一人の個性を尊重し、多様性社会の担い手の育成に向けた取組を推進する。	・自分で考えて行動することが苦手である。		

III 自 校

ミッション	育成する力 資質・能力	知識・技能を土台とする「主体性」「問題解決力」「協働力」
地域に信頼され、地域が誇る学校	1 年	・各教科の基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。 ・知識・経験から課題を発見し、解決策を提案し実践することができる。 ・課題を解決するために収集した情報を比較・分類・整理し、方法を工夫しまとめ、発信することができる。 ・自らの考えを持ち、他者とのかわりの中で自らの意見を深めることができる。 ・自分に自信を持ち、目の前の課題を自分のこととして捉え、取り組むことができる。
学校教育目標	2 年	・基礎的・基本的な知識・技能をもとに、自分の考えをまとめ、表現する力を身に付けることができる。 ・知識・経験・日常生活から課題を発見し、主体的・計画的に解決のための活動に取組むことができる。 ・課題解決のため計画的に収集した情報を分析・評価し、相手・目的に応じてまとめ方を工夫し、わかりやすく発信することができる。 ・他者の意見を肯定的にとらえ、協働して互いの考えを生かし、発展的に物事を考えることができる。 ・課題に直面しても自らの責任を果たす努力をし、課題解決のために他者と協力して行動できる。
自立的に生き、未来を拓く生徒の育成	3 年	・基礎的・基本的な知識・技能をもとに、向上心をもって他者との交流の中で、自分の考えを深めたり、論理的に表現したりする力を身に付け、地域や自分の将来に活用していくことができる。 ・知識・経験・社会状況を関連付けて課題を発見し、協働的・計画的に取り組み、解決の過程や結果を評価することができる。 ・課題解決のために多角的に収集した情報を分析・評価し、簡潔で説得力のある内容にまとめ、効果的な方法を工夫して発信することができる。 ・集団や他者の中で、折り合いをつけながら互いに良い部分を引き出しながら、建設的な関係を作ることができる。 ・課題に向き合うことで自らの責任を果たし、他者と協働して、問題解決し、その結果に責任を持つことができる。
現 状	研究	テーマ 情報を整理・分析し、自分の考えを自分の言葉で語れる生徒の育成 ～「聴き取り」、「読み取り」、「説明する」授業を通して～ 内容等 単元で『身につけるスキル』を明確にし、主体的・対話的で深い学びができる授業を創造し、実践する。
＜生徒＞ 純朴で素直であるが、自分で考え、判断し、行動することが苦手で、指示待ちになることが多い。また、自己肯定感が低く、粘り強く取り組むことに課題がある。	めざす授業の姿	単元で『身につける資質・能力』を明確にした授業 自律的・協働的に学びに取り組む授業 基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題解決をする授業
＜授業＞ 教師主導型の授業から学習者基点の授業への転換を進めているものの、知識・技能の習得に重点がおかれた授業も多く、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める必要がある。また、主体的に学びに向かうためのルールやマナーとしての学習規律についての指導を進める必要がある。		

福山市立至誠中学校

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営 目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	加え 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	加え 評価	達成 評価	総合 評価
2	基礎的・基本的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成	★	一部新規	基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none">各単元で身に付けさせたい基礎的な知識・技能を明確にし、生徒に提示する。単元末におけるまとめテストと小テストのさらなる充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">全国学力・学習状況調査において、本校の県平均の通過率以上の生徒の割合を昨年度以上福山市学力定着状況調査における達成率を4月から1月にかけて向上させる。単元末テストまたは内容確認テストにおける定着率80%以上の生徒を70%以上	<ul style="list-style-type: none">全国学力・学習状況調査の結果が、昨年度に比べて以下のように向上した。 国語57.7%→59.0% 数学50.0%→59.0% ・福山市学力定着状況調査において、4月の結果の平均正答率(全国平均)は以下の通りであった。 1年 2年 国語 61.5 53.0 (64.5) (65.0) 数学 61.1 48.9 (66.8) (53.6) ・単元末テスト定着率80%以上の生徒 1年 2年 3年 国72.2 42.3 63.6 数61.3 66.6 43.4	3	2	<ul style="list-style-type: none">基礎的な学力の定着のために、前時の復習や様々な問題に触れさせるなど反復して取り組ませる。活用する力の向上のために、自分の考えを根拠をもって表現する場を設ける。単元の中で、振り返りの時間を設定し、これまでの学びを自分の言葉で表現させることで、知識・技能の定着と活用力の向上を図る。				
		継続	主体的な学びの促進	<ul style="list-style-type: none">単元で身に付けたスキルを活かすことができ、身のまわりの生活と関連した題材を取り上げた課題解決型の授業を実施する。定期試験(まとめテスト等)の際に生徒個々に学習計画表を作成させ、試験後にその取組を振り返らせる。自主ノートの取組を継続するとともに、模範となるノートを示し、学習方法を紹介する。	<ul style="list-style-type: none">「授業では、解決しようとする課題について、解決方法の見通しを持っている」の肯定的評価を90%以上「学習の振り返りをもとに、学習の取り組み方を改善することができた」の肯定的評価を85%以上「自分の学習の役に立つ自主学習ノートの取組ができている。」の肯定的評価を75%以上	<ul style="list-style-type: none">「授業では、解決しようとする課題について、解決方法の見通しを持っている」の肯定的評価が92.3%であった。「学習の振り返りをもとに、学習の取り組み方を改善することができた」の肯定的評価が78.5%であった。「自分の学習の役に立つ自主学習ノートの取組ができている。」の肯定的評価が78.5%であった。	3	3	<ul style="list-style-type: none">課題解決のスキルを身に付けるために、課題を解決するためのプロセスを、示したり考えさせたりする場面を単元の中に設定する。テスト勉強計画表に、前回までの学習の取組状況を記入する欄を設け、これまでの取組を踏まえたうえで、目標や学習計画を立てられるようにする。学習の質を高めるために、生徒同士のノートの交流や、模範となるノートを掲示し、意識の向上を図るとともに、家庭との連携を図る。					

2	豊かな心と社会性の育成	★	継続	SDGsを学ぶ土台となる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年「菖蒲の継承」、2学年「職場体験活動と修学旅行」、3学年「生徒自身が企画立案して行う地域貢献活動」を総合的な学習の時間の基本的な学習のスタイルと位置づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「住んでいる地域に愛着を持っている」の肯定的評価を90%以上 ・「今住んでいる地域の行事に参加しています」の肯定的評価を75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「住んでいる地域に愛着を持っている」の肯定的評価が87.7%であった。 ・「今住んでいる地域の行事に参加しています」の肯定的評価が83.1%であった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアだけでなく、校内での奉仕活動を積極的に仕組み、その行動を認めるプロセスを踏んでいく中で、奉仕の心を育てていき、地域へと広げていく。 ・総合的な学習の時間において「地域貢献」をテーマとし、地域の様々な方々と様々な視点から関わる活動を行い、地域の良さや魅力に気づかせ、愛着を持てるようにしていく。 					
			継続	生徒の自主的、実践的な態度を育成する教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・自治的な活動を充実させ、自主性と社会性を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校行事では、自分の役割を自覚し、主体的に行動しています」の肯定的評価を95%以上 ・「学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めています」の肯定的評価を90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校行事では、自分の役割を自覚し、主体的に行動しています」の肯定的評価が89.2%であった。 ・「学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めています」の肯定的評価が80.0%であった。 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・係の仕事やリーダーとしての役割を生徒に任せ、事前の打ち合わせを充分にすることで、状況に応じて自分で考えて行動できるようにする。 ・学級活動で、班で1日の振り返りを考えさせ、それを基に次の日の目標を考えさせていく。 					
					<ul style="list-style-type: none"> ・行事やボランティア活動等を通して自己有用感を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分には良いところがある」の肯定的評価を80%以上 ・「自分の良いところを行事やボランティアなどで発揮できている」の肯定的評価を75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分には良いところがある」の肯定的評価が73.8%であった。 ・「自分の良いところを行事やボランティアなどで発揮できている」の肯定的評価が73.8%であった。 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動や行事のリーダーなどで、生徒が活躍できる機会を増やしていく。 ・行事やボランティア活動での生徒の取組を、全校集会や委員会活動を通して学校全体で共有し、価値付けをする。 					

2	子どもの学びを支える教育環境の整備		継続	保護者・地域との連携情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学級だより、HP等による情報発信を行う。 ・PTA本部役員を中心として、随時PTA活動の見直しと充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「メール配信やHP等の充実により学校の情報は適切に発信されている」の肯定的評価を85%以上 ・「学校は、生徒・保護者・地域と連携し教育活動が行われている」の肯定的評価を85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「メール配信やHP等の充実により学校の情報は適切に発信されている」の肯定的評価が92.8% ・「学校は、生徒・保護者・地域と連携し教育活動が行われている」の肯定的評価が98.5% 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・メール配信については引き続き迅速に行う。HPについては、月1回以上の更新を行う。 ・PTA本部役員を中心としたPTA活動を今後も充実させていく。 						
		★	新規	充実感を得られる働きやすい職場	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の見える化を行い、見通しをもって意図的、計画的に教育活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務に係る教職員アンケート肯定的評価90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「仕事にやりがいを感じている」の肯定的評価が71.4% 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も意図的、計画的に教育活動を推進し、より充実感を得られる職場にする。 						

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。